

上智大学 大学生 テレビは「時のメディア」と実感 メディアを目指すゼミ生が来社

2025年8月18日（月）

8月18日（月）、東京・上智大学生8人が来社しました。新聞学科の音好宏教授のゼミに在籍するみなさんで、日頃からジャーナリズムを学び、放送局や新聞社などメディアへの就職を目指す学生も多いことから道内各社を回りました。

まず、HTBビジョンや「地域メディア」としてHTBが目指していることの説明を受け、視聴者とのふれあいを大切にしたイベントやonちゃん等のIPビジネスにも触れました。また、『イチオシ!!』の本番を含めたスタジオ・サブ、報道スタジオ・サブや多くの天気カメラが並ぶ回線センターなどを見学した後、社員と質疑応答を行いました。大学OBの戸島編成局長に対し、「自社制作番組が他のローカル局より多いのは、意識してのことなのか？」と鋭い質問が飛び出した他、「天気予報はスマホで見ってしまうのになぜ重要なのか？」、「テレビだけでなくネット・SNSに力をいれるのはなぜなのか？」という若者らしい疑問が投げかけられました。学生らは20分後の『イチオシ!!』の夕方ニュースのスーパーが一枚も入っていなかったことに特に驚き、「間に合うのですか？間に合わないときはどうするのですか？」と具体的な質問が止まりませんでした。

学生からは「リアルな現場をみせていただき、本当にギリギリの時間の中、大勢の人数で作っているのを感じた。時のメディアという言葉がぴったり。（4年生・ゼミ長）」と感想が寄せられました。

